

日本学術会議

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会

自動運転企画分科会（第25期 第8回）

議事要旨

日 時 令和5年2月3日(金) 13:00～15:00

会 場 オンライン開催 (Zoom)

出席者（敬称略、順不同） 永井、大倉、鎌田、遠藤、宮崎、須田、中野

議 題

（１）前回議事要旨・メモの確認

内容が確認され、承認された。

（２）見解の査読対応について

資料3を基に、中野幹事より、見解案と査読に対する対応の説明があった。多くは、編集上の修正要望であった。誤植等の微修正を行い、一週間くらいで科学的助言等対応委員会へ提出することで同意を得た。

（３）今後のスケジュール等

資料6に従い、永井委員長より、スケジュールが確認された。提言は4月に向けて案を完成させたい。5月連休明けまでに査読対応をし、7月を目途に提言をまとめたい。

学術フォーラムは企画するので、枠を確保しておきたい。フォーラムにおいては、官庁の方にも話してほしいと思っている。今年は、7月の安全工学フォーラムでは、企画しない。

鎌田幹事から小委員会の予定の説明があった。

永井委員長から、提言を出す条件が厳しくなったので、学術会議全体では、その発出には慎重になっているとの報告があった。目次の説明があり、社会実装の話をする際には、

民間の話も入れ、社会デザイン、技術的課題、そして、国際標準作り、国際協調に触れる旨の説明があった。

（４）提言の申し出と本文のたたき台について

鎌田幹事より資料５に基づき、提言案が説明された。参考文献はまだ書いていない。現在の案は 21 ページなので、内容を少しカットする必要がある。境町等の具体例を入れて、社会変容の話をした方が良いとの意見があった。

なお、今期から、提言の頁数の制約は緩和され、20 ページは目安となったことが確認され、無理に内容を短くする必要がないことが分かった。提言は政府に向けたものになるが、産官学民向けに書いているので、その辺りの内容は学術フォーラムで扱うと良い。

提言には、境町の具体例も入れて、学術会議のフォーマットに合うように作成することで同意を得た。

資 料

資料１：第７回議事要旨（案）

資料２：見解案「自動運転における倫理・法律・社会的課題」（修正案）

資料３：査読指摘事項への回答

資料４：意思の表出の申出書（提言）

資料５：提言案

資料６：提言スケジュール